

## ATV/オートバイ用多機能デジタルメーター MA-085-XXX-XX 取扱説明書

この度は弊社製品をお求め頂きまして誠にありがとうございます。この説明書はMA-085-XXX-XXシリーズ用に書かれています。MA-085-1XX/2XXシリーズは針式スピードメーターを、MA-085-3XX/4XX/5XX/6XXシリーズは針式タコメーターを装備しています。それぞれのモデルは針のスケールが異なり、LEDインジケーターの種類も異なります。そのため、説明書の写真はお手元の製品と異なる場合がございます。スピードメーター及びタコメーターのスケールが異なるモデルの一覧は以下のとおりです。

MA-085-21X: 210Km/H	MA-085-26X: 260Km/H
MA-085-3XX: 6,000rpm	MA-085-4XX: 9,000rpm
MA-085-5XX: 12,000rpm	MA-085-6XX: 15,00rpm

型番末尾に“-XX”が付くモデルのベゼルは以下の仕上げになっています。何もつかないモデルはプラスチック製のベゼルです。  
-AB: CNC アルミ製ベゼル つや消しブラック仕上げ  
-CP: CNC アルミ製ベゼル メッキ仕上げ



### パネル説明

1. タコメーター目盛
2. 針式タコ又はスピードメーター
3. 1行目: 現在・最大速度表示
4. 2行目: 他機能表示
5. ギヤインジケーター
6. リセットボタン
7. モードボタン
8. シフトワーニングインジケーター
9. バーグラフ温度計
10. バーグラフ燃料計
11. 8 LED インジケーターランプ

異なるモデルはそれぞれ異なったLEDインジケーターを装備しています。それぞれのアイコンは以下のとおりです：

Series	Model No	LED Indicators
MA085-3XX	MA085-X52	[Icons]
MA085-4XX	MA085-X54	[Icons]
MA085-5XX	MA085-X56	[Icons]
MA085-6XX	MA085-XX3	[Icons]
MA085-21X	MA085-XX5	[Icons]
MA085-26X	MA085-XX6	[Icons]

\* "X" is for needle tachometer 3, 4, 5 or 6. "XX" is for speedometer 21 or 26

### 特徴

- 針式タコメーター又はスピードメーター・各種デジタル機能・8個のLEDインジケーターを装備。
- 液晶はスピードメーター・バーグラフ温度計・燃料計・ギヤインジケーターと他の1つの機能を同時に表示。
- ギヤインジケーターは速度とエンジン回転数よりギヤポジションを算出。
- オプションの温度センサーで外気温の計測が可能。
- 燃料計は990オームまでのフューエルセンサーに対応。リザーブモードではバーグラフは表示されず、入力信号線が-veに接続されたときに燃料警告を表示。燃料計機能が不要の場合は機能をOFFにすることが可能。
- バッテリー警告は11.0V~15.0Vの間で任意の警告電圧に設定が可能。
- スピードメーターは必要に応じて小数点以下の表示をON/OFF可能。(例: 100または100.5)
- 視認性の高い3LEDシフトワーニングインジケーター
- 30km (18.6miles) 未満の時、任意の値にオドメーターを設定することが可能。
- 設定可能ホイール外周長は1~3999mm。
- ブラケット・回転信号線・ホール又はリードタイプスピードセンサー・フィッティングキット・ワイヤーハーネス・メインユニットスリーブと水油温用温度センサーを標準添付。
- 優れた防水・耐振動・耐ノイズ設計。

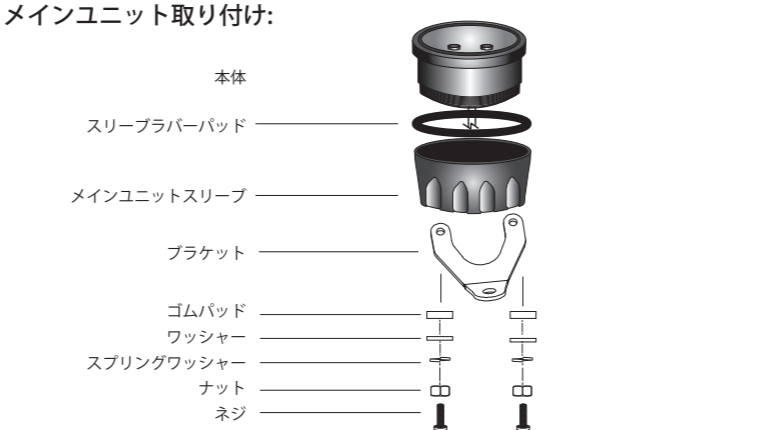
### 仕様

機能	シンボル	仕様
針式スピードメーター		MA-085-21X 210Km/H MA-085-26X 260Km/H

機能	シンボル	仕様
針式タコメーター		MA-085-3XX 6,000rpm MA-085-4XX 9,000rpm MA-085-5XX 12,000rpm MA-085-6XX 15,000rpm
デジタルタコメーター	rpm	100~19,900 rpm
スピードメーター	Km/h / MPH	2.4-399.9 km/h (248.5 MPH)
最高速度表示	MAX SPD	2.4-399.9 km/h (248.5 MPH)
平均速度表示	AVG SPD	2.4-399.9 km/h (248.5 MPH)
温度計 1		0°C-180°C / 32°F-356°F, HI or OFF
温度計 2		<0°C 「-L-」, >180°C 「-H-」 表示-
最高温度表示	MAX	0°C~180°C / 32°F~356°F
トリップ 1&2	TRIP 1or2	0.0-999.9 KM/624.9Miles
トリップ 3	TRIP 12	999.9-0 KM/Miles count down
オドメーター	ODO	0 - 999999 KM, 0-624999 Miles
時計		AM/PM 0:00' - 11H59' / 23H59'
ライディングタイム	RT	0 - 99H59'59"
トータルライディングタイム	TT	0 - 9999999H
アワーメーター	HRTT	0 - 9999999H
電圧計	V	8.0-18.0V ・ バッテリー警告
ギヤインジケーター		N, R, 1, 2,... 8速 ・ off モード
メンテナンスリマインダー		9999km, 9999 hours or OFF
バーグラフ温度計		1-7 バー 又は off モード
バーグラフ燃料計		1-7バー, 10Ω -990Ω設定可, リザーブモード, 又は 非表示

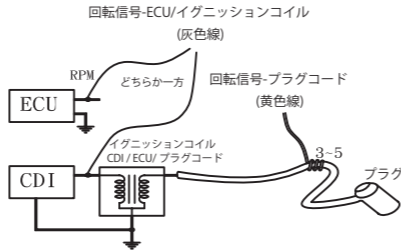
電源電圧 DC 12V  
タコメーターセンサー CDI 又は イグニッションコイル信号  
速度センサー リード又はホールセンサー  
温度センサー サーマセンサー  
速度パルス分周器設定範囲 1-199 パルス  
速度パルス最高入力周波数 7K Hz  
タイヤ外周長設定範囲 1mm-3999mm  
外形寸法 Ø85\*56.1mm

### 取付けと部品



#### タコメーターセンサーの取付け:

- 1.黄色又は灰色のどちらかの配線を接続して回転信号を取得します。
- 2.黄色の配線はプラグコードに巻きつけて使用します。
  - a.信号強度はイグニッションコイルのタイプにより異なります。
  - b.2~5回プラグコードに巻きつけます。巻き数を増やすと信号強度は強くなります。信号強度が弱くと表示されなくなります。逆に信号強度が強すぎると過剰に反応します。その場合にはセット同梱の1MΩ抵抗をセンサー線に巻きつけて接続することで良くなる場合があります。
- 3.もし、信号が不安定ならば灰色の配線をECUの回転信号線かイグニッションコイルの1次側、又はダイレクトイグニッション車プラグキャップのパルス線に接続してみてください。



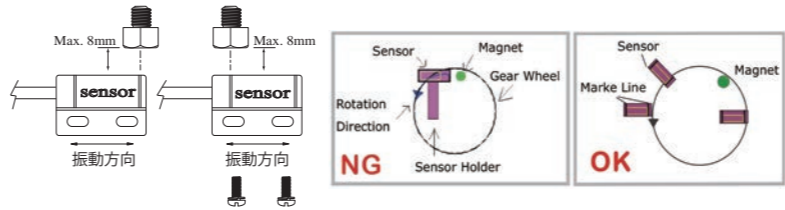
#### 速度センサーの取付:

ACEWELLでは各種スピードセンサーを用意しています。ユニットにはいずれかのセンサーが同梱されています。モデルにより車両の速度信号に接続されることを意図しており、その場合には速度センサーは同梱されません。

#### リードタイプ速度センサーとマグネット:

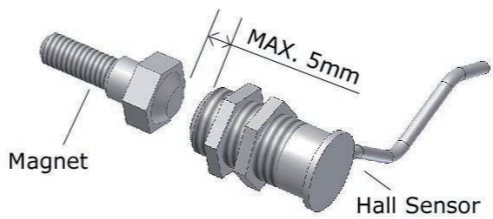
- 1.このセンサーはオートバイ用に最も汎用性の高いセンサーです。ホイールの回転する部分(一般的にはプレーキディスク固定ボルト)にマグネットを装着します。

- 2.センサーに記されている位置決め線の中心をマグネットが通過するようにセンサーの取り付け位置を決めてください。
- 3.センサーは振動方向と垂直に取り付けます。振動方向と平行にセンサーを取り付けることは車両の振動により不具合の原因となります。
- 4.マグネットとセンサーの隙間が8mm以内であることを確認してください。



#### ホールセンサーとマグネット (日本未発売):

- 1.オプションのセンサーホルダーを併用してATVのリアホイールやオートバイのフロント足回りに取り付ける汎用センサーです。
- 2.ホイールやドライブシャフトなどの回転する部分で、センサーの検知面を通過できる位置にマグネットを取り付けます。
- 3.センサーの検知面を磁石の中心が通過するようにセンサーの取り付け位置を決めてください。
- 4.マグネットとセンサーの隙間が5mm以内であることを確認してください。



#### メーターワイヤーセンサー (日本向け製品添付品):

純正の機械式メーターと交換することでメーターワイヤーの回転を電気信号に変換するセンサーです。

#### 温度センサーおよびセンサーアダプター:

- 1.セットには水温センサーが付属しています。センサーを適切な位置へ簡単に取り付けするために冷却水ホースに割り込ませるセンサーアダプターをオプションで用意しています。(内径20,22,24,26mm)
- 2.センサーアダプターは切断した冷却水ホースにアダプターを割り込ませ、付属の締付け金具で確実に固定します。
- 3.センサーをアダプターに確実に閉め込んで固定します。
- 4.サーモスタットが開いてから冷却水を補充し、十分にエア抜きを行なってください。

#### ワイヤードリモコンの取り付け:

- 1.リモコン取り付けステーをハンドルバーに固定します。
- 2.ステーには3箇所取り付け穴がありますので車両に適した箇所を使って取り付けてください。
- 3.リモコンの配線を本体側のカブラーに接続します

### 機能

#### RPM: デジタルタコメーター

- 1.フルスケール**19,900rpm**でエンジン回転数を数字で表示します。**20,000rpm**以上の時には**19,999rpm**と表示されます。
- 2.タコメーター信号線は**2本**あり、いずれか片方を使用します。黄色線はプラグコードへ巻きつけて使用し、白色線は**ECU**またはイグニッションコイルに接続して使用します。

#### シフトワーニング機能

- 1.任意の警告回転数を設定して機能を有効にします。
- 2.黄色のインジケーターは設定回転数の**500rpm**手前になると点滅します。
- 3.オレンジのインジケーターは設定回転数に達すると点灯します。
- 4.赤のインジケーターは設定回転数を**500rpm**を超えると点灯します。
- 5.シフト操作でエンジン回転数が下がると消灯します。

#### MAX RPM: 最高回転数

前回リセット操作を行なった以降の最高エンジン回転数を表示します。

#### Km/H or MPH: スピードメーター

- 1.フルスケール**399.9Km/h** (マイル表示では**248.5MPH**) で速度を表示します。
- 2.スピードセンサーからの最高パルス周波数は**7KHz**です。
- 3.非常に小さな外周長さや、非常に大きな分周比を設定した場合、最高パルス周波数の関係で速い速度が表示できない場合があります。

#### MAX: 最高速度

前回リセット操作を行った以降の最高速度を表示します。

#### AVG: 平均速度

前回リセット操作を行った以降の平均速度を表示します。平均速度は**TRIP**で割った計算値です。

#### TRIP 1&2: トリップ 1&2

前回リセット操作を行った以降の走行距離を表示します。**1**と**2**は独立してそれぞれリセットすることが可能です。

#### ODO: オドメーター

- 1.メーター使用開始からの総走行距離を表示します。
- 2.オドメーターの表示が30Km未満の場合に限り、オドメーターを任意の値に設定することが可能です。任意値として30Km以上の値をセットした場合、または取付け後30Km以上走行してオドメーターの値が30Kmを超えた場合、それ以降、一切の変更ができなくなります。任意値にセットする場合、桁の入力間違いなどに十分注意してください。

#### RT: ライディングタイム

- 1.前回リセット操作を行った以降の走行時間を表示します。
- 2.走行を開始すると自動的に積算を開始します。

#### TT: トータルライディングタイム

- 1.メーター使用開始からの総走行時間を表示します。
- 2.この値はリセットすることができません。

#### HRTT: アワーメーター

- 1.メーター使用開始からのエンジン運転時間を表示します。
- 2.エンジンを始動すると自動的に積算を開始します。
- 3.この値はリセットすることができません。

#### ⌚: 時計

現在の時刻を12時間制または24時間制で表示します。

#### TEMP 1 and 2: 温度計 1 & 2

- 1.測定 (表示) 温度範囲は 0°C-180°C / 32°F-356°Fです。
- 2.温度が0°C(32°F)を下回った場合、または温度センサーが外れた場合には -L-°C (-L-°F) を表示します。また、温度が180°C or 356°Fを上回った場合には、-H-°C (-H-°F) を表示します。
- 3.エンジン温度をセンサー1で、外気温をセンサー2で計測することが可能です。
- 4.設定した警告温度を超えると、バーグラフ温度計とデジタル温度計、そして温度警告LEDが点滅します。

#### MAX TEMP 1&2: 最高温度 1 & 2

前回リセット操作を行なって以降の最高温度を表示します。

#### ⚡: デジタル電圧計・バッテリー警告

- 1.車両の電源電圧 (メーターへの供給電圧) を表示します。
- 2.設定値には b-on ・ b-off ・ b-HIの3種類があり、それぞれの設定範囲は11.0V~15.0Vです。
- 3.b-onは低電圧警告開始電圧です。ここに設定した電圧以下になると警告LEDが点滅します。
- 4.b-offは低電圧警告終了電圧です。ここに設定した電圧以上になると警告を終了します。この値は必ずb-onで設定した値よりも高い電圧を設定してください。
- 5.b-HIは高電圧警告開始電圧です。ここに設定した電圧以上になると警告LEDが点滅します。

#### ⚙️: ギヤインジケーター

- 1.内蔵ギヤインジケーターは現在速度と回転数からギヤポジションを計算して表示します。
- 2.ギヤインジケーターを使用する前には学習操作が必要です。

#### SCAN: スキャン機能

- 1.ディスプレイ2行目の数値を設定した秒数ごとに自動的に機能を切り替えながら順番に表示する機能です。設定可能な秒数は1~20秒間隔です。
- 2.この機能をOFFにした場合はボタン操作により表示を切替えます。

#### ⛽: 燃料計

- 1.8段階のバーグラフで燃料を表示します。
- 2.燃料計を使用する場合、燃料残が無い時のフューエルセンサー抵抗値と燃料満タン時のフューエルセンサー抵抗値をそれぞれ10~1000Ωの間で設定する必要があります。2つの抵抗値に基づき、バーグラフの表示はリニアに変化します。燃料残が (抵抗値の上で) 10%を切った時、バーグラフ表示は点滅し、警告LEDが点灯します。
- 3.リザーブインジケーターとして使用する場合、燃料残量スイッチに接続して、メーター側の設定を「RES」モードにセットします。燃料計配線がアースされると警告LEDが点灯します。
- 4.燃料計機能が不要ない場合は「OFF」を選択します。

#### 🌡️: バーグラフ温度計\*

- 1.8段階のバーグラフで温度を表示します。
- 2.警告温度をセットすると、下から4番目のバーが、設定した警告温度の-15°Cで点灯するように自動的にセットされます。バー表示1つは15°Cを表します。
- 3.バーグラフ温度計は設定された警告温度を超えると点滅します。

#### 速度表示オプション:

- 1.速度表示の小数点以下の値を表示するかしないかを設定することが可能です。
- 2.設定モードで小数点表示の有無を設定します。(設定の11.参照)

#### 🔧: メンテナンスリマインダー

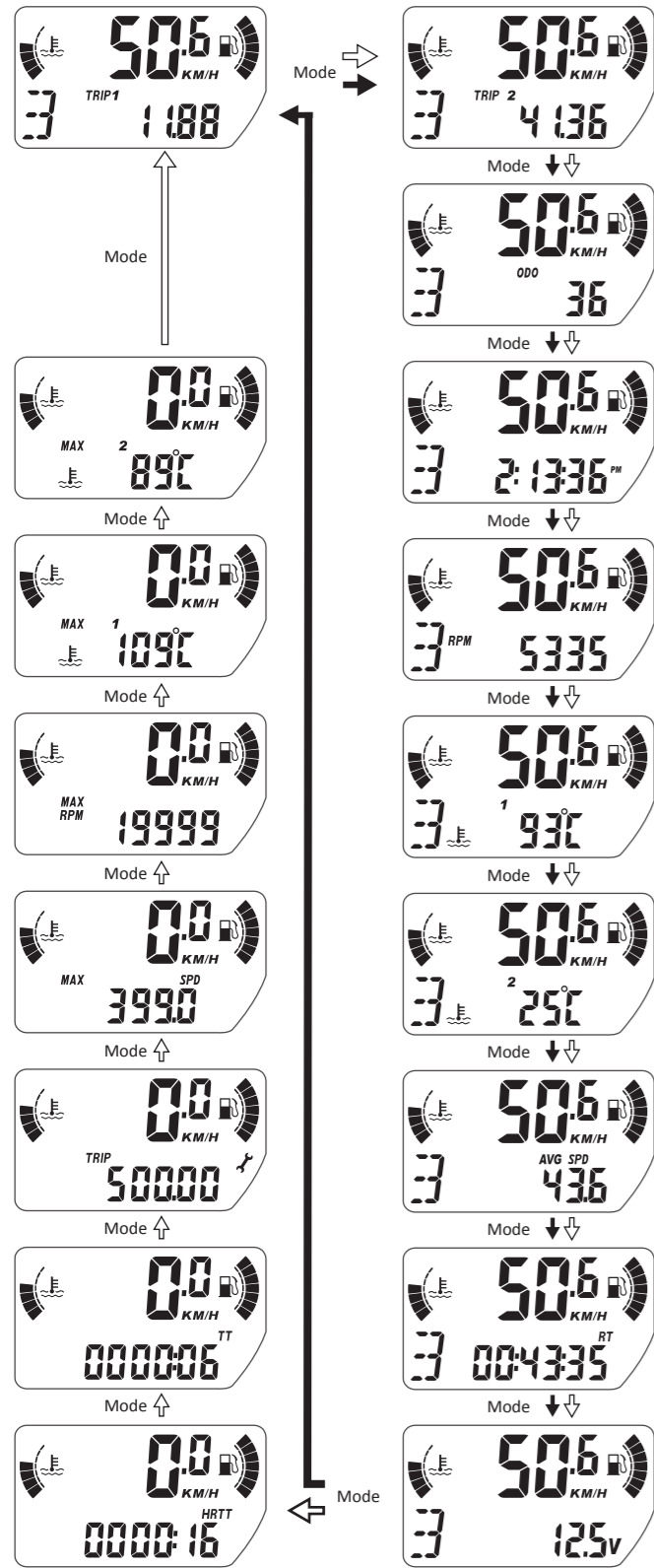
- 1.メンテナンスリマインダーは距離、またはエンジン運転時間を基準にしてセットすることが可能です。この機能が不要ない場合はOFFすることも可能です。
- 2.距離を基準にする場合は9999Kmまでの間隔を設定できます。
- 3.エンジン運転時間を基準にする場合は9999時間までの間隔を設定できます。

### ボタン操作

#### MODE ボタン

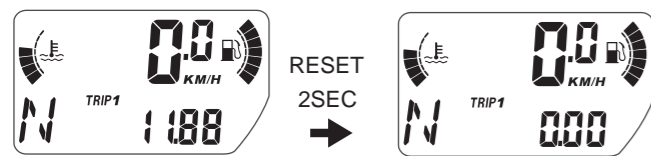
- 1.速度パルスが入力されていない時は、**MODE**ボタンを押すごとに、すべての機能が“←”の順番に機能が表示されます。

2.速度パルスが入力されているときはMODEボタンを押すごとに“→”の順番に機能が表示されます。



**RESET ボタン**  
短く押した場合、MODEボタンを押した時と反対周りに機能が表示されます。

- データのリセット**
1. **TRIP1・TRIP2**・最高速度・最高回転数・最高温度  $\uparrow$  が表示された状態で **RESET** ボタンを2秒間長押しするとその数値をリセットして0に戻すことができます。メンテナンスリマインダーの値は設定されたメンテナンス間隔に戻ります。
  2. **TRIP1**・平均速度・ライディングタイムはいずれかをリセットした時点で残り2機能の値も同時にリセットされます。
  3. オドメーター・時計・アワーメーター・トータルライディングタイムの各値はリセットできません。



**シフトワーニング回転数設定**

1. MODE または RESET ボタンを押してデジタルタコメーターを表示させます。そしてスロットルを開け、警告させたい回転数までエンジン回転を上げます。
2. RESET ボタンを押すと、その時の回転数が警告回転数としてセットされます。
3. 以降、設定した回転数までエンジン回転が上昇すると警告LEDが動作します。
4. 再設定を行う場合は、デジタルタコメーターを表示させた状態で RESET ボタンを2秒間長押しします。

**バックライトカラー調整:**

1. MODE ボタンを押して電圧計の表示にします。その状態でRESETボタンを2秒間長押しするとバックライトカラーのセットモードに入ります。
2. セットモードでは「LED RGB」「RX-GX-BX」表示が変わります。「X」は0～9までの数字で、R=赤・G=緑・B=青各色の光の強さを表しています。
3. RESET ボタンを押す度に、点滅している数値が1ずつ増えます。MODE ボタンを押すと次の色の数値に点滅が移動します。MODE ボタンを2秒間長押しするとセットモードを抜けTRIP1に戻ります。

**ギヤインジケータ学習操作:**

1. リアホイールを使って速度を検出している場合、安全に固定されたレーシングスタンドなどで車輪を浮かせた状態で学習させることが可能です。フロントホイールを使って速度を検出させている場合、学習操作のために実際に車両を走行させる必要があります。
2. MODE または RESET ボタンを押して、デジタルタコメーターを表示します。
3. MODE ボタンを2秒間長押しするとギヤポジション数設定モードになります。
4. ギヤインジケータが初期値の0で点滅します。
6. RESET ボタンでギヤポジション数を4～8速の中から選択します。「0」を選ぶとギヤインジケータをOFFすることができます。
7. MODE ボタンを押すとギヤ比の学習モードに入ります。6.で「0」を選んだ場合には学習操作は終了となります。
8. ギヤインジケータに「1」が点滅します。ギヤを1速に入れ、車両を発進させ、エンジン回転数を2000～4000rpmの間で一定の回転数となるように走行します。
9. 回転数が一定に保たれた状態で約5秒間経過するとギヤインジケータに「-」が点滅し、「1」の表示となります。これで1速のギヤ比が学習されたこととなります。
10. MODE ボタンを押すと1速のギヤ比が記憶され、2速の学習に入ります。
11. ギヤインジケータに「2」が点滅します。ギヤを2速に入れ、エンジン回転数を2000～4000rpmの間で一定の回転数となるように走行します。
12. 回転数が一定に保たれた状態で約5秒間経過するとギヤインジケータに「-」が点滅し、「2」の表示となります。これで2速のギヤ比が学習されたこととなります。
13. MODE ボタンを押すと2速のギヤ比が記憶され、3速の学習に入ります。
14. 上の11.～13.の操作を繰り返し行い、すべてのギヤのギヤ比を学習させます。すべてのギヤ比の学習操作が終わった状態でMODE ボタンを押すと通常モード(デジタルタコメーター)に戻ります。学習操作は1速から最終段まで連続して行う必要があります。各段を個別に学習することは出来ません。
15. 学習したギヤ比を保存しないで終了するにはMODE ボタンを2秒間長押しして通常モードに戻ります。

**タイヤ外周長一覧表(マグネットセンサー用)**

1. 下表は次の計算式を使用して計算しています。  
「タイヤの直径(インチ)×25.4(mm)×3.1416 = タイヤ外周長」  
表中の直径はホイールサイズではなく、タイヤを含めた直径であることに注意してください。
2. 車両のタイヤ直径(ホイールサイズではなく)を確認して下表より外周長を求めてください。また、この表を使わなくても「タイヤの直径(mm)×3.1416」で外周長を計算することが出来ます。

タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)	タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)	タイヤ直径	タイヤ外周長 (mm)
15 inch	1197	19 inch	1516	23 inch	1835
16 inch	1277	20 inch	1596	24 inch	1915
17 inch	1357	21 inch	1676	25 inch	1995
18 inch	1436	22 inch	1756	26 inch	2075

3. 表の数値は概算値です。実際に車両タイヤの外周長をmm単位で測定してメーターに設定いただくことを強くおすすめします。
4. 本機は、速度パルスの間隔を測定して速度を計算します。表の数値はマグネットセンサーを使用した場合に限っての数値です。
5. 製品に付属しているメーターワイヤーセンサーを使用する場合、設定数値は「メーターワイヤー軸1回転あたりの距離(mm)」となります。バイクを押してメーターワイヤーを回し、メーターワイヤー軸が360度回転する間に車両がどれだけ進むかをmm単位で計測していただいたものが設定数値となります。一般的な国産車の場合、JIS規格値の「60Km/h=1400rpm」から計算された715mmという値が設定値となります。ただし、ホイールサイズなどを変更している場合は測定が必須です。
6. マグネットセンサーの場合、マグネットを増やすことができます。マグネットを2個にした場合、分周器の設定を「002」にします。ただし、マグネットの数は2コ程度までに留めるほうが良いでしょう。
7. 本機はスピードパルス分周器(1/2～1/199)を内蔵しています。この機能を利用することでスピードパルス数が異なる、例えば車両に装備されている純正スピードメーター用センサーなどが利用できる可能性があります。分周機能の数値はホイール1回転あたりのパルス数を設定し、スピードメーター機能の数値はタイヤ外周長をmm単位で設定します。純正スピードセンサーの流用についてはその正確なスペックや信号の波形などをよく理解した上でなければ、車両やメーターに対して故障の大きなリスクを生じます。最低限、車両の整備書を熟読して接続が可能かどうかの検討を行なって下さい。この機能に関するお問い合わせの際には最低限整備書の内容が必要となりますので、お問い合わせの前にならずご用意ください。また、センサーのスペックによっては接続ができない場合もございます。その際には別売のマグネットセンサーをご使用ください。

**時計・タコ・外周長・分周・単位・小数点・温度・リマインダー・燃料の設定**

1. セットアップモードでは現在時刻、12/24時間制切替、シフトワーニング警告回転数、タコメーターパルス数、タイヤ外周長、スピードパルス数、使用単位、小数点表示、メンテナンスリマインダー、バッテリー警告、温度単位および警告温度、フューエルセンサー抵抗値、オドメーター初期値の各設定を変更可能です。このモードで75秒間全くボタン操作が無い場合には自動的に通常モードへ戻ります。
2. セットアップモードに入るためにはMODEボタンとRESETボタンを同時に2秒間長押しします。セットアップモードの中では、MODEボタンを押す度に設定する項目が移動します。設定される項目は画面上で点滅しています。この状態でRESETボタンを押すと項目の数字が増えたり、単位が変更されたりします。どの画面からでもMODEボタンの2秒間長押しで通常モードへ戻ります。
3. セットアップモードは「12/24H」および「XX:XX-XX」画面から始まります。12/24時間制を選択して、時計を「時」「分」と順番に設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
4. 次に「RPM rXXX00」画面になります。出荷時は「RPM r06500」となっています。シフトワーニング回転数をMODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
5. 次に「RPM SP 1r1P」画面になります。出荷時は「RPM SP 1r1P」となっています。設定には1r1P, 1r2P, 1r4P, 2r1P, 3r1Pの5種類があります。数値の「r」は回転、「P」は点火信号を意味します。例えばエンジン2回転当たり1回の点火信号が発生する車両に装着する場合の設定値は「2r1P」となります。
6. RESETボタンを押すたびに設定値が順番に変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
7. 次に「SPD SEn HALL」又は「SPD SEn rEEd」が表示されます。HALLはAcewell独自の2線式ホールセンサー(付属ワイヤーセンサーも含みます)に使用するモードです。rEEdはリードセンサー(別売のマグネットセンサー)や3線式のセンサーなどに使用するモードです。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
8. 次に「SPD cXXXX」画面になります。タイヤ外周長を設定します。4つの数字は外周長をmmで表しています。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
9. 次に「SPD P-001」画面になります。ホイール1回転あたりのパルス数を入力します。付属ワイヤーセンサーやオプションのマグネットセンサーをマグネット1個で使用する場合、設定値は「P-001」となります。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
10. 次に単位設定画面になります。RESETボタンを押すたびにKm/hとMPHが切り替わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
11. 次に、「99.9Km/H SPD と on」または「99Km/H SPD & oFF」が表示されます。小数点以下の表示をするかしないかの設定となります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
12. 次にメンテナンスリマインダー設定画面になります。「 $\uparrow$ 」と「TRIP」「HRT」または「oFF」が表示されます。TRIPでは1000km(621miles)が、RTでは100時間が初期設定値となっています。「oFF」の時には、この機能は無効に設定されています。設定をMODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
13. 次に「 $\square$  b-on」と点滅する電圧の数値が表示されます。「b-on」は低電圧警告開始電圧で、この電圧を下回ると警告LEDが点滅します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vです。設定を完了すると、次に「 $\square$  b-off」と点滅する電圧が表示されます。「b-off」は低電圧警告終了電圧で、この電圧を上回ると警告LEDは消灯します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vですが「b-on」設定電圧より高い必要があります。設定を完了すると、次に「 $\square$  b-H」と点滅する電圧の数値が表示されます。「 $\square$  b-H」は高電圧警告開始電圧で、この電圧を上回ると警告LEDが点灯します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vですが「b-off」設定電圧より高い必要があります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
14. 次に「 $\uparrow$  1  $\square$  1  $\square$  C,  $\square$  F, HI または oFF」が表示されます。RESETボタンを押すたびに温度単位、「HI」、「oFF」表示へと変わります。「HI」にした場合、入力線がアースされると警告が発生ようになります。「oFF」にした場合、メーター上に温度計のバーグラフは表示されなくなります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
15. 次に「 $\uparrow$  1 XXX」と14で選択した温度単位が表示されます。温度警告を開始したい温度を1桁ずつ設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
16. 次に「\*\* $\uparrow$  2  $\square$  C,  $\square$  F または oFF」が表示されます。RESETボタンを押すたびに温度単位、「oFF」表示へと変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
17. 次に「SCAn」と「on または oFF」が表示されます。「点滅する 01 と SCAn」が表示されているとき、1秒間隔で液晶表示が次の機能に自動的に切り替わるという設定になります。画面変更間隔は1～20秒の間で設定が可能です。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
18. 次に「on, off または rES」と「 $\square$ 」が表示されます。バーグラフがすべて点灯している設定画面は燃料満タン時のフューエルセンサー抵抗値の設定画面です。1桁ずつ設定値を入力します。設定可能範囲は10 $\Omega$ ～1000 $\Omega$ です。バーグラフが1つだけ点灯している設定画面は燃料0時のフューエルセンサー抵抗値の設定画面です。1桁ずつ設定値を入力します。設定可能範囲は10 $\Omega$ ～1000 $\Omega$ です。「oFF」に設定した時には燃料計の機能はOFFとなり、メーター上に表示は現れません。「rES」に設定した時には入力線がアースされた時、メーター上に燃料のシンボルが現れ、LEDが点灯します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
19. 次に「ODO と 00000X km」表示となります。1桁ずつ設定値を入力します。オドメーターの表示が30Km未満の場合に限り、オドメーターを任意の値に設定することが可能です。任意値として30Km以上の値をセットした場合、または取付け後30Km以上走行してオドメーターの表示が30Kmを超えた場合、それ以降、この設定画面は現れなくなり、一切の変更ができなくなります。任意値にセットする場合、桁の入力間違いなどに十分注意してください。MODEボタンを押すと最初の時計設定に戻ります。2秒間長押しすると通常モードに戻ります。

